

2	法定	自主
	○	

産業廃棄物処理計画書

令和 8年 6月 9 日

横浜市長

殿



提出者

住 所 横浜市保土ヶ谷区西久保町6

氏 名 横浜コンクリート株式会社
代表取締役社長 松尾 達也
(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)
電話番号 045-331-8661

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	横浜コンクリート株式会社	自主管理事業登録番号	(2006)
事業場の所在地	横浜市保土ヶ谷区西久保町6	TEL(連絡先):	0415-331-8661
計画期間	令和 8 年 4 月 1 日 ~ 令和 9 年 3 月 31 日(1 年間)		
当該事業場に関する事項			
① 事業の種類	E21-窯業・土石製品製造業 (具体的には) 生コンクリートの製造・販売		
② 事業の規模 ※ 前年度実績を記入、医療機関は前年度末時点の病床数を記入。	製造業	製造品出荷額	1,293 百万円
	建設業	エリア内元請完成工事高	百万円
	医療機関	病床数	床
	その他の業種	売上高	百万円
	(上記項目に該当しない場合にはこちらに記載をしてください。)		
③ 従業員数	11		
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程 ※ 産業廃棄物の種類ごとに記入	汚泥 建設現場で生コンクリート打設終了後の戻りコンクリートを当事業所に持ち帰り、回収装置により骨材とスラッジ水に分離。スラッジ水は脱水処理し脱水ケーキとして保管。もしくは、戻りコンクリートを事業所構内にまき、硬化後破碎。それら産業廃棄物を運搬業者に委託して最終処分場で破碎処理し路盤材として再利用している。 混合廃棄物→分別・破碎→再資源化		

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

工場組織図 ……資料1
 環境側面管理規定 ……資料2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度(令和 7 年度)実績】		
	産業廃棄物の種類数	2 種類	* 種類ごとの前年度排出量は、別紙のとおり。
	① 排出量	21,085.0 t	
② 計画	(これまでに実施した取組)		
	戻りコンクリート発生制御するため、事前に生コンクリートの納入打ち合わせをする。一定の理解は得られていると思うが、製品の性質上、どうしても数量に余裕を持った発注となる。また、発注ミスなどにより大量の戻りコンクリートが発生するケースもあり、減少は思うように進まないが、神奈川生コンクリート協同組合でも戻りコンクリートの有償化がはじまり、減少傾向になりつつある。		
	戻りコンクリート発生制御するため、事前に生コンクリートの納入打ち合わせをする。一定の理解は得られていると思うが、製品の性質上、どうしても数量に余裕を持った発注となる。また、発注ミスなどにより大量の戻りコンクリートが発生するケースもあり、減少は思うように進まないが、神奈川生コンクリート協同組合でも戻りコンクリートの有償化がはじまり、減少傾向になりつつある。		
② 計画	【(令和 8 年度)目標】		
	産業廃棄物の種類数	2 種類	* 種類ごとの本年度排出目標量は、別紙のとおり。
	① 排出量	18,818.0 t	
② 計画	(今後実施する予定の取組)		
	発注ミスによる戻りコンクリートの発生をなくすように、施工者・関係業者に生コンクリートの数量確認を徹底して頂くように協力を願う。		
	発注ミスによる戻りコンクリートの発生をなくすように、施工者・関係業者に生コンクリートの数量確認を徹底して頂くように協力を願う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	戻りコンクリートを回収装置で処理し、処理できない戻りコンクリートは、硬化後に破碎しガラス・コンクリート・陶磁器くずとして排出する。	
	戻りコンクリートを回収装置で処理し、処理できない戻りコンクリートは、硬化後に破碎しガラス・コンクリート・陶磁器くずとして排出する。	
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)	
	同上	
	同上	

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度(令和 7 年度)実績】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
	戻りコンクリートは処理後に細骨材・粗骨材・スラッジ水に分離し、脱水処理後、ミキサー車のドラム内洗浄、または練り水として使用している。		
② 計画	【(令和 8 年度)目標】		
	②+⑧ 自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら再生利用量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	同上		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度(令和 7 年度)実績】		
	⑤ 自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら熱回収を行った量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	15,485.0 t	* 種類ごとの前年度自ら中間処理により減量した量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
	製品を荷下ろし後に発生する洗浄水、または戻りコンクリートを回収装置で細骨材・粗骨材・スラッジ水に分離して発生するスラッジ水を脱水装置にて脱水し、脱水ケーキを産業廃棄物として排出します。		
② 計画	【(令和 8 年度)目標】		
	⑤ 自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら熱回収を行う量は、別紙のとおり。
	⑦ 自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	13,800.0 t	* 種類ごとの本年度自ら中間処理により減量する量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	同上		

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

① 現状	【前年度(令和 7 年度)実績】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	* 種類ごとの前年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量は、別紙のとおり。
	(これまでに実施した取組)		
	該当なし		
② 計画	【(令和 8 年度)目標】		
	③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	* 種類ごとの本年度自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う量は、別紙のとおり。
	(今後実施する予定の取組)		
	該当なし		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

① 現状	【前年度(令和 7 年度)実績】		
	⑩ 全処理委託量	5,600.0 t	* 種類ごとの前年度処理委託量は、別紙のとおり。
	⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0 t	
	⑫ 再生利用業者への処理委託量	5,600.0 t	
	⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0 t	
	⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	
	(これまでに実施した取組)		

備考

- 1 この様式は、前年度(令和7年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
また、前年度(令和7年度)の産業廃棄物の発生量が1,000トン未満の事業場にあつては、神奈川県・横浜市・川崎市・相模原市・横須賀市が推進する廃棄物自主管理事業へ参加するにあたり、事業場ごとに1枚作成し、提出してください。
- 2 当該年度(令和8年度)の6月30日までに提出してください。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (1) 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入してください。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入してください。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入してください。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入してください。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入してください。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付してください。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入してください。
- 7 第5面の※欄には、何も記入しないでください。

2-1	法定	自主

別紙一括表

[illegible]

産業廃棄物処理計画書

別紙処理口—

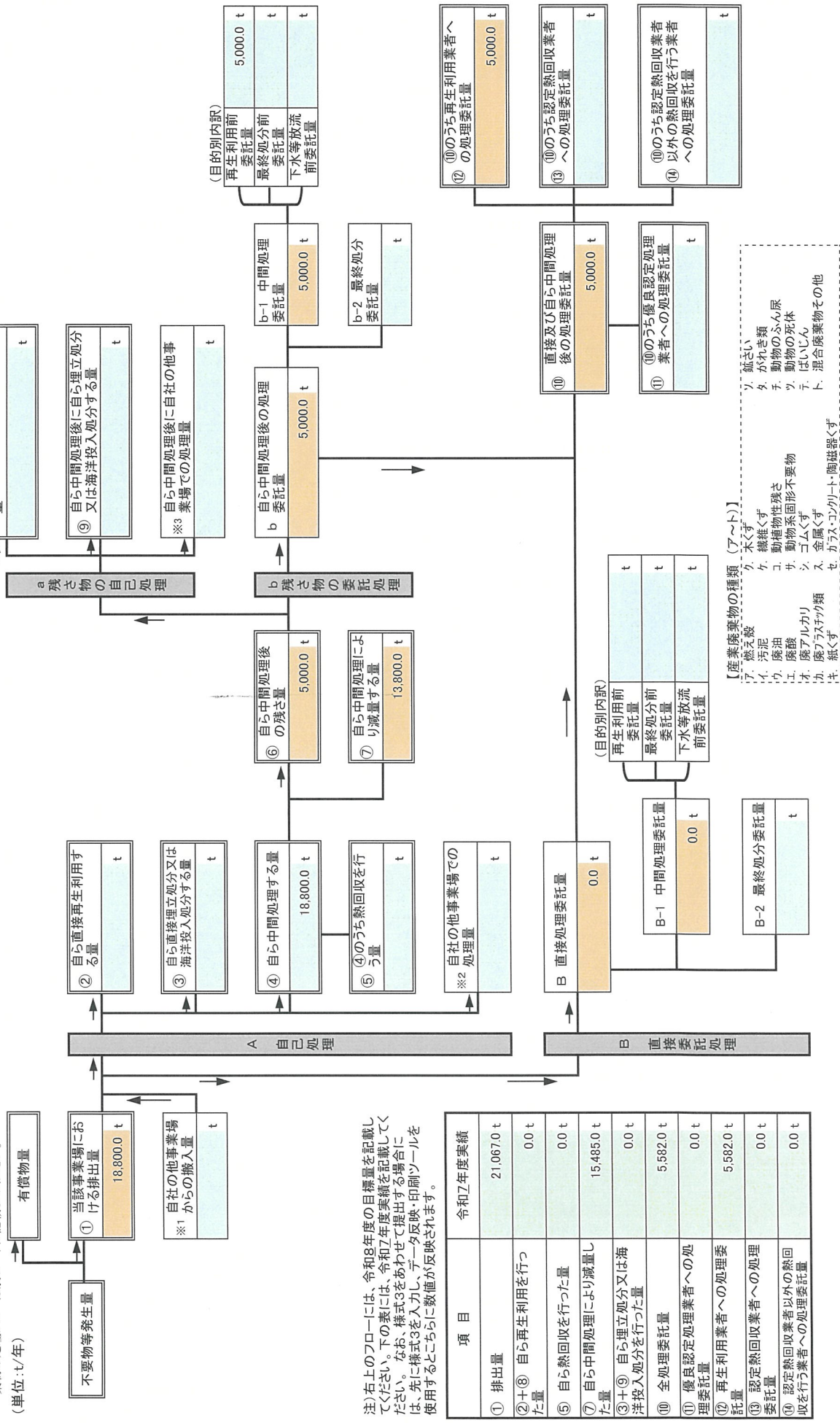
令和8年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業
廃棄物の種類

イ. 汚泥

※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。

(单位:t/年)



項目	令和7年度実績
① 排出量	21,067.0 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減量した量	15,485.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	5,582.0 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	5,582.0 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

注) 右上のフローには、令和8年度の目標量を記載してください。下の表には、令和7年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

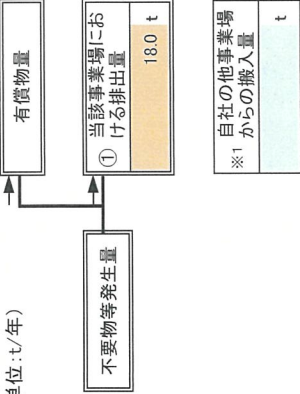
産業廃棄物処理計画書

別紙処理フロー

令和8年度発生する産業廃棄物ごとの目標量と処理計画

フローに記載した産業廃棄物の種類	ト、混合廃棄物その他
※ 本用紙は廃棄物の種類ごとに1枚の記載となります。異なる廃棄物の処理フローは別シートに記載してください。	

(単位: t/年)



注) 右上のフローには、令和8年度の目標量を記載してください。下の表には、令和7年度実績を記載してください。なお、様式3をあわせて提出する場合には、先に様式3を入力し、データ反映・印刷ツールを使用するとこちらに数値が反映されます。

項目	令和7年度実績
① 排出量	180 t
②+⑧ 自ら再生利用を行った量	0.0 t
⑤ 自ら熱回収を行った量	0.0 t
⑦ 自ら中間処理により減した量	0.0 t
③+⑨ 自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った量	0.0 t
⑩ 全処理委託量	180 t
⑪ 優良認定処理業者への処理委託量	0.0 t
⑫ 再生利用業者への処理委託量	180 t
⑬ 認定熱回収業者への処理委託量	0.0 t
⑭ 認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0.0 t

2-2	法定	自主
	○	

事業場名称 : 横浜コンクリート株式会社

